

これまでの議論で出た分科会方針（中期計画抜粋）

【社会価値をS指標として特定しカタログ化】

- 地域社会の持続可能性への脅威である、ライフライン、少子高齢化、まちづくり、女性参画（ジェンダー平等）等は、資金提供者自体の行動変容（地域社会の発展を加味する）につながる指標として各金融主体が取引先の業界・業種・事業規模に照らし選択できるようなカタログの検討。
- 日本版ディーセントワーク8指標など大中小企業で共通項目となりえるものや、企業体によって異なる指標を参考にしていく。

【S指標と企業の社会価値の因果性を検証】

- S指標が投融資先企業の社会価値にどう活用できるか（結びついているか）はS指標と企業行動における社会価値へのロジックモデルを検討する。
- また社会価値の見える化を進めていく上で、金銭価値化が重要であるが、当面はロジックモデルの検証を通じて、分科会参加金融機関で事例を積み上げ、将来的に金銭価値の可視化を目指す。

【具体的評価方法】

- これまでの投融資判断・審査の枠組みを維持しつつ、将来の社会価値をS指標を通して、ポジティブ、ニュートラル、ネガティブの3段階で評価するなどが考えられる。
- また、ローカルの視点として地域毎のマテリアリティの設定についても議論が必要。